## 上流・中流・下流のようすのちがい … 川のつくる地形

● 同じ川でも流れは変わる

同じ川であっても、上流・中流・下流によって流れは変わります。上流では水の量は少なく、流れは急で速くなっています。それが、下流に行くにしたがって、だんだんと水は増え、流れはゆるやかにゆっくりとなっていきます。

● 川のもつはたらき

川には水が流れています。この水の力によって、川は川底や川岸をけずり（浸食）、れきや土砂を運び（運搬）、流れがおそくなるところで、運んでいたれきや土砂を置いてためます（堆積）。

● 上流（山間部）のようす

上流の流れは、速いのですが、ふだんは水の量が少ないためあまり力がありません。

しかし、雨が降ったり雪がとけたりして水の量が増えると、その速い流れで底や岸の岩盤を激しくけずります。川底はだんだんとしずみ、深くけわしい谷（V字谷）をつくっていきます。そして、けずってできた土砂や山からくずれた岩石を下流に運ぶのです。

水量がある場合、水の流れは速ければ速いほど大きな石を運ぶことができます。そのため、上流部には大きな岩から小さな石までが、河原や流れの中にゴロゴロとあります。

せまい谷をつくるため、河原は広くありません。

**上流。巨大な石がある。深い谷になっている。戸蔦別川上流部（帯広市八千代町）。**

● 中流（平野部）のようす

山から平野部に出てきた流れは、かなりゆるやかになります。水が多い時、山から運ばれてきた大きめの石は、ここで流れの底に落ち、置いていかれます。

その後、流れはだんだんとゆるやかになり、それに合わせて、上流側に大きな石が、下流側に小さな石がたまっていきます。

洪水になるとかなり激しい流れになり、ふだんの流れから水があふれ出します。上流から石を流してきてためていくため、水が引くと広い河原ができます。

また、中流では流れが速くなって川底をけずることがあるので、まわりに段丘が発達します（→ 段丘のでき方 p49）。

**中流。人の頭くらいの石がある。河原が広がっている。札内川（帯広市大正町・第二大川橋）。**

● 下流（河口近くの平野部）のようす

下流になると、川はばが広く水の量が多くなり、流れがゆったりと、とてもおそくなります。

ちょっとした地面のかたむきによって流れが曲がるため、もともとはとても曲がりくねっていました（今では、人の手でかなりまっすぐになっています：→ p190）。

川ぞいや川底には石らしい石は少なくなり、砂やどろが増えてきます。これは、下流では洪水になっても流れがおそいので、石を運ぶことができないためです。

そのため河原がほとんどなく、水ぎわにまでヤナギがビッシリと生えています。

**下流。ほとんど河原がなく、わずかにどろや砂の州が見える。水ぎわまでヤナギが生える。十勝川（豊頃町大津・十勝河口橋下流）。**